ところで，この(　)内の交項級数は，条件Aを満たしているでしょうか。もし，満たしていれば，項打ち切りによる誤差の評価ができます。

(　)内の交項級数の第n項と第$(n+1)$項とを，それぞれu_n，u_{n+1}とすれば，

$$\frac{u_n}{u_{n+1}}=\frac{t^{2n-1}}{(n-1)!\,2^{n-1}(2n-1)}\times\frac{n!\,2^n(2n+1)}{t^{2n+1}}$$

$$=\frac{2n(2n+1)}{t^2(2n-1)}$$

$$\therefore\ \frac{u_n}{u_{n+1}}=\frac{2n(2n+1)}{t^2(2n-1)} \qquad ②$$

ここで，tは高々4ぐらいまでの値ですから，nをある程度大にすれば，②の右辺を1より大にすることができます。実際

$$\left.\begin{array}{lll} t=1,\ 2\text{のときは} & n\geqq 1 & \text{で} \\ t=\ \ 3\ \ \text{のときは} & n\geqq 4 & \text{で} \\ t=\ \ 4\ \ \text{のときは} & n\geqq 7 & \text{で} \end{array}\right\}\cdots\cdots\cdots\cdots③$$

②の右辺は1より大になり，条件Aを満たすことがわかります。したがって，これらの項以上までの和を取れば，項打ち切り誤差の評価ができますから，あらかじめ，項打ち切り誤差の大きさεを決めておけば，その大きさが，εより小になる項（かりにu_{n+1}とする）の一つ手前の項u_nまで，この級数を計算すればよいことになります。

なお，計算に際しては，次の漸化式

$$u_{n+1}=u_n\times\frac{t^2(2n-1)}{2n(2n+1)}$$

を用いて，次々に項を求めるプログラムを作り，項打ち切り誤差が，εより小になる項(u_{n+1})の一つ手前u_nまで，この級数を計算するようにします。

なお，上側確率の%点を求める場合，初めは，大体の値を予想してきざみを大きめに取り，求める%点の近くの値を見つけます。次に，その点の近辺で，更にきざみを小にして求める%点に最も近い値を求めます。これをくり返して，小数点以下の必要桁まで計算します。この方法を，今後〝手さぐり法〟という